

## 甲斐国分尼寺跡(笛吹市)

甲斐国分寺跡から北方向へ少し行くと甲斐国分尼寺跡がある/北方向を見たところで、道路の右側に金堂跡、講堂跡があり、道路の左側も寺域(下図参照)となっている/右手に標柱と石碑が立っており、更に道路前方右手には説明板が立っている



現在は金堂跡と講堂跡に礎石が残っている



← この道路が上記の写真の道路/  
上記の写真は金堂跡辺りから  
北門跡方向を見ている

「史跡 甲斐国分尼寺跡」と記された標柱(右手)と石碑(左手)



石碑/昭和24年7月に国史跡に指定されたとある



そこから南東方向を見たところで、標柱の背後に金堂跡の礎石が点在している



これはそこから北東方向を見たところで、正面には講堂跡の礎石が点在している/前方左手に説明板が見える



これが説明板/右手は講堂跡、左手は尼房跡





文化財庁

国指定史跡

# 甲斐国分尼寺跡

天平十三年（七四一）、聖武天皇は全国に国分寺と国分尼寺を建てるように命じました。国分尼寺は女性のためのお寺で、聖武天皇の後であった光明皇后の希望により建てられました。皇后は深く仏教を信仰しており、東大寺の大仏や全国の国分寺・国分尼寺の建設は皇后が天皇に勧めたものであると伝わっています。

甲斐国分尼寺跡は、甲斐国分寺跡の北側にあります。発掘調査の結果、築地塀と溝に囲まれた約一八〇坪四方の範囲であったことがわかりました。寺跡の中には南門・中門・回廊・金堂・講堂・尼房などの建物があったと推定されていますが、金堂と講堂以外はまだ確認されていないため詳細は不明です。塔は建てられませんでした。

寺跡の周りでは多数の竪穴住居跡群が見つかり、「法寺」「花寺」などの文字が書かれた土器が出土しました。これらは国分尼寺の正式名称である「法華滅罪之寺」を省略したものです。こうした竪穴住居跡には国分尼寺の建設のために働きに来た人たちが住んでいたものと考えられています。

平成二十二年三月

笛吹市教育委員会



甲斐国分尼寺跡伽藍復元図



築地塀発掘調査状況



墨書土器「法寺」

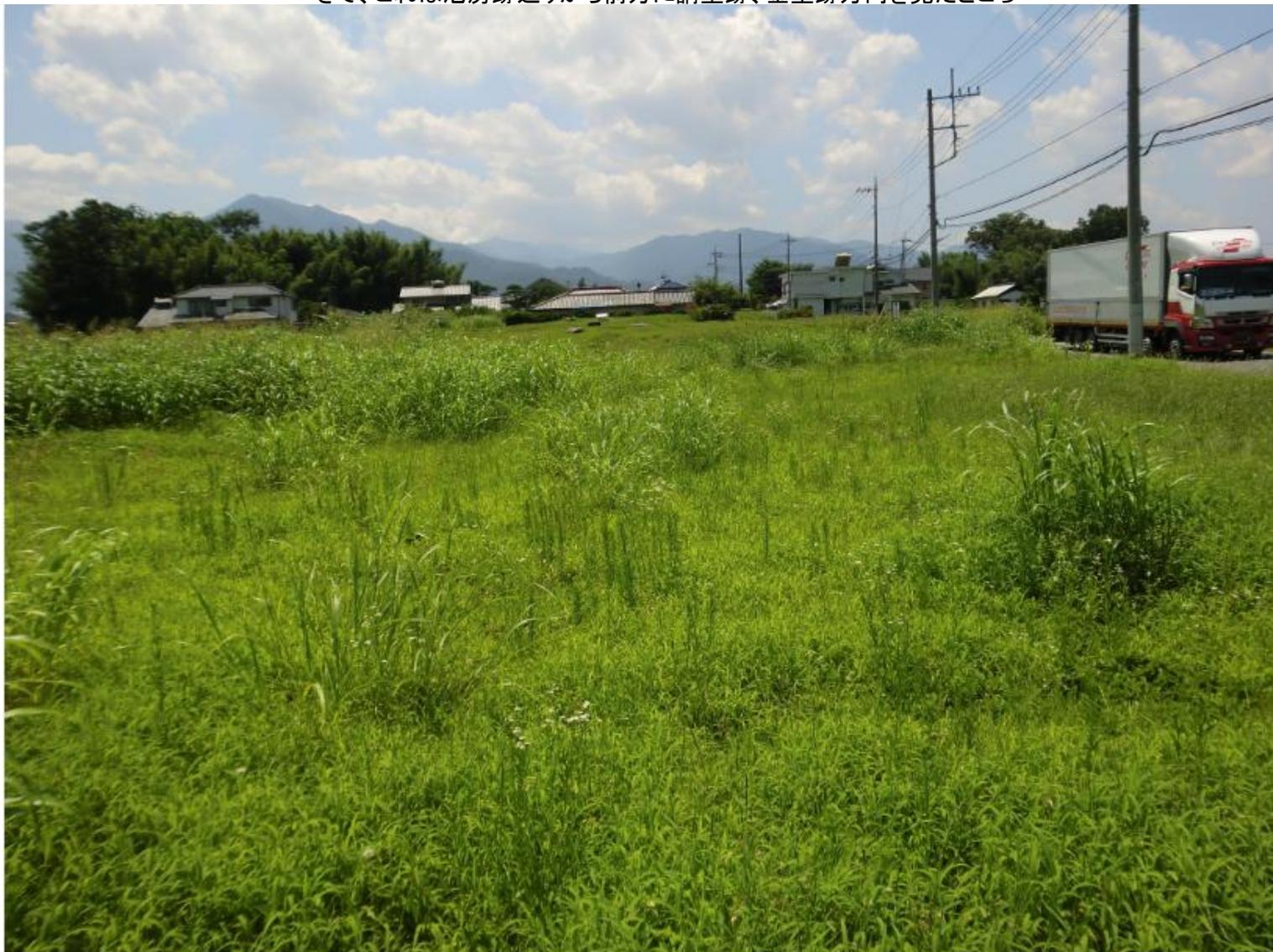
道路の左側も寺域となっているが現状は草むらとなったままである



道路を少し進んで振り返って北側から南方向を見たところ/左手に尼房跡、講堂跡、金堂跡と前方に向かって所在する/道路の右手も寺域となっている



さて、これは尼房跡辺りから前方に講堂跡、金堂跡方向を見たところ



近づいて講堂跡とその先に金堂跡を見たところ/それぞれの説明板と礎石が見える



北東側から南西方向へ見たところで、正面の礎石は講堂跡のもの/左手奥は金堂跡/講堂の基壇は金堂の基壇よりも一段低くなっているのが見てとれる



講堂跡を南東側から北西方向へ見たところ/講堂跡の説明板が立っている



講堂の西側の礎石一列は先程の道路により破壊され、消失しているらしい/甲斐国分尼寺の講堂は甲斐国分寺の講堂よりも一回り規模が小さいという

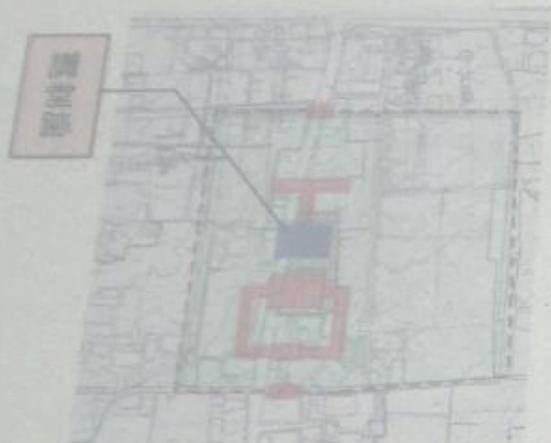
# 講堂跡

講堂は尼僧たちが仏教を学び修行する建物で、国分尼寺には十人の尼僧を置くことが定められていました。

講堂跡は基壇という土を固めた壇の上に建てられていますが南側の金堂跡よりは一段低くなっています。基壇の上には建物の柱を支えていた礎石が十二個残されています。礎石は西側の一列が道路によって削られています。東西六列（五間）、南北五列（四間）に並び、東西二〇一、南北十三、八の建物であることが推定されています。国分寺跡の講堂は東西二六、四、南北十三、七であるので二回り小さい規模であったことがわかります。

平成二十一年三月

笛吹市教育委員会



甲斐国分尼寺跡伽藍復元図



上空から見た講堂跡(東から)

点線が基壇の範囲

南側から北方向へ講堂跡を見る



振り返って北側から南方向へ金堂跡を見たところ/金堂跡の説明板が立っている/前方の民家の辺りは中門跡付近だろうか



金堂の西側の礎石一列も先程の道路により破壊され、消失しているらしい

# 金堂跡

金堂は国分尼寺の中心に位置する建物で、本尊の仏像が安置されてきました。国分尼寺の本尊は国分寺建立の詔では決まっていますが、天平宝字五年（七六一）に丈六の阿彌陀三尊像を造るよう命じられています。

金堂跡は基壇という土を固めた壇の上に建てられていて、国分寺の中で一番高く目立つ建物でした。基壇の上には建物の柱を支えていた礎石が十八個残されています。礎石は西側の一列が道路によって削られています。礎石は東西六列（五間）、南北五列（四間）に並び、東西二〇・四尺、南北十三・二尺の建物であったことが推定されています。

平成二十一年三月

笛吹市教育委員会



甲斐国分尼寺跡伽藍復元図



上空から見た金堂跡(南西から)

点線が基壇の範囲

北東側から南西方向へ見たところで、礎石が点在している



南側から北方向へ金堂跡を見たところで、更にその向こうが講堂跡



南西側から北東方向へ金堂跡を見たところ/左手前方が講堂跡



礎石の上にこんなものもあった



さて、ここは先程の道路(右下から斜め左上の道路)の南側で、斜め右上に少し行った辺りが南門跡付近と思われる/正面はその交差点にあった石造物群









南門付近と思われるところにあった石造物



同上



## 参考ホームページ

<http://mapbinder.com/Map/Japan/Yamanashi/Fuefuki/Kokubunji/Kokubunji.html>

<http://1st.geocities.jp/tekedadesu/kokubunzi.html>

<http://orange.zero.jp/kkubota.bird/kai.htm>

[http://vssoho.blog.ocn.ne.jp/blog/2012/01/post\\_83cd.html](http://vssoho.blog.ocn.ne.jp/blog/2012/01/post_83cd.html)

<http://blogs.yahoo.co.jp/qazxswedcvfr2004jp/49957840.html>

<http://japan-geographic.tv/yamanashi/fuefuki-kokubunji.html>

